

(参考) 2014年度 規則改正にかかわる、改正前の野球規則

★★★ 全日本軟式野球連盟発表の[2014年度野球規則改正]の参考として表示しました。(千軟連HP管理者)

(1)

1.15 投手のグラブの規格および構造は、1.14規定のとおりであるが、別に次の制限がある。

(a) 投手用のグラブは縫い目、しめひも、^{ウエブ}網を含む全体が1色であることが必要で、しかもその色は、白色、灰色以外のものでなければならない。

(2)

1.17 ~プロの規定により省略

(3)

2.40 INFIELD FLY「インフィールドフライ」——⁰アウトまたは1アウトで、走者が一・二塁、一・二・三塁にあるとき、打者が打った飛球(ライナーおよびバントを企てて飛球となったものを除く)で、内野手が普通の守備行為をすれば、捕球できるものをいう。この場合、投手、捕手および外野手が、内野で前記の飛球に対して守備したときは、内野手と同様に扱う。

審判員は、打球が明らかにインフィールドフライになると判断した場合には、走者が次の行動を容易にとれるように、ただちに「インフィールドフライ」を宣告しなければならない。また、打球がベースラインの近くに上がった場合には「インフィールドフライ・イフ・フェア」を宣告する。

【付記】 インフィールドフライと宣告された打球が、最初に(何物にも触れないで)内野に落ちて、ファウルボールとなれば、インフィールドフライとはならない。また、この打球が、最初に(何物にも触れないで)ベースラインの外へ落ちて、結局フェアボールとなれば、インフィールドフライとなる。

【原注】 審判員はインフィールドフライの規則を適用するにあたって、内野手が普通の守備行為をすれば捕球できるかどうかを基準とすべきであって、たとえば、芝生やベースラインなどを勝手に境界線として設定すべきではない。たとえ、飛球が外野手によって処理されても、それは内野手によって容易に捕球されるはずだったと審判員が判断すれば、インフィールドフライとすべきである。インフィールドフライはアピールプレイであると考えられるような要素はどこにもない。審判員の判断がすべて優先し、その決定はただちに下されなければならない。

インフィールドフライが宣告されたとき、走者は危険を承知で進塁してもよい。インフィールドフライと宣告された飛球を内野手が故意落球したときは、6.05(1)の規定にもかかわらずボールインプレイである。インフィールドフライの規則が優先する。

(4)

2.44 INTERFERENCE「インターフェアランス」(妨害)

(a) 攻撃側の妨害——攻撃側プレーヤーがプレイしようとしている野手を妨げたり、さえぎったり、はばんだり、混乱させる行為である。

審判員が打者、打者走者または走者に妨害によるアウトを宣告した場合には、他のすべての走者は、妨害発生の瞬間にすでに占有していたと審判員が判断する塁まで戻らなければならない。ただし、本規則で別に規定した場合を除く。

【原注】 打者走者が一塁に到達しないうちに妨害が発生したときは、すべての走者は投手の投球当時占有していた塁に戻らなければならない。

【注】 本項(原注)は、プレイが介在した後に妨害が発生した場合には適用しない。

(5)

(d) 観衆の妨害——観衆がスタンドから乗り出したり、または競技場内に入って、

(1) インプレイのボールに触れた場合、(2) インプレイのボールを守備しようとしている野手に触れたり、じゃまをした場合に起こる。

妨害が起きた場合は、ボールデッドとなる。

(6)

3.05 先発投手および救援投手の義務

(d) 〈新〉すでに試合に出場している投手がインニングの初めにファウルラインを越えてしまえば、その投手は、第1打者がアウトになるかあるいは一塁に達するまで、投球する義務がある。ただし、その打者に代打者が出た場合、またはその投手が負傷または病気のために、投球が不可能になったと球審が認めた場合を除く。

(7)

4.12 ~プロの規定により省略

(8)

6.05 打者は、次の場合、アウトとなる。

(h) 打者が打つか、バントしたフェアの打球に、フェア地域内でバットが再び当たった場合。

【原注】 バットの折れた部分がフェア地域に飛び、これに打球が当たったとき、またはバットの折れた部分が走者または野手に当たったときは、プレイはそのまま続けられ、妨害は宣告されない。打球がバットの折れた部分にファウル地域で当たったときは、ファウルボールである。

バット全体がフェア地域に飛んでプレイを企てている野手(打球を処理しようとしている野手だけでなく、送球を受けようとしている野手も含む)を妨害したときには、故意であったか否かの区別なく、妨害が宣告される。

(9)

6.06 次の場合、打者は反則行為でアウトになる。

(c) 打者がバッタースボックスの外に出るか、あるいはなんらかの動作によって、本塁での捕手のプレイおよび捕手の守備または送球を妨害した場合。(以下略)

【原注】 打者が捕手を妨害したとき、球審は妨害を宣告しなければならない。打者はアウトになり、ボールデッドとなる。妨害があったとき、走者は進塁できず、妨害発生の瞬間に占有していたと審判員が判断した塁に帰らなければならない。(中略)

打者が空振りし、自然の打撃動作によるスイングの余勢が振り戻しのとき、その所持するバットが、捕手がまだ確捕しない投球に触れるか、または捕手に触れたために、捕手が確捕できなかったと審判員が判断した場合は、打者の妨害とはしないが、ボールデッドとして走者の進塁を許さない。

(10)

7.09 次の場合は、打者または走者によるインターフェアとなる。

(a) 第3ストライクの後、打者が投球を処理しようとしている捕手を妨げた場合。

【注】 ① 第3ストライクの宣告を受けただけでまだアウトになっていないか、または四球の宣告を受けて一塁へ進むべき打者走者が、三塁からの走者に対する捕手の守備動作を妨害した場合は、その打者走者をアウトとし、三塁からの走者は、投手の投球当時占有していた三塁へ帰らせる。その他の各走者も、同様に帰塁させる。

② 第3ストライクの宣告を受けて6.05(b)または同(c)でアウトになった打者が三塁走者に対する捕手の守備動作を妨害したときは、7.09(e)によって三塁から走ってきた走者もアウトにする。

③ ②の場合で、重盗を防ごうとする捕手の守備動作を妨害したときは、その対象となった走者をアウトとして、他の走者は妨害発生の瞬間にすでに占有していた塁へ帰らせる。もしも、捕手の守備動作がどの走者に対してなされたかが明らかでない場合には、本塁に近い走者をアウトにする。

(11)

8.02 投手は次のことを禁じられる。

(a) (1) 投手が投手板を囲む182cmの円い場所の中で、投球する手を口または唇につけた後にボールに触れるか、投手板に触れているときに投球する手を口または唇につけること。

投手は、ボールまたは投手板に触れる前に、投球する手の指をきれいに拭かなければならない。

【例外】 天候が寒い日の試合開始前に、両チーム監督の同意があれば、審判員は、投手が手に息を吹きかけることを認めることができる。

ペナルティ 投手が本項に違反した場合には、球審はただちにボールを宣告する。その宣告にもかかわらず、投手が投球して、打者が安打、失策、死球、その他で一塁に達し、かつ走者が次塁に達するか、または元の塁にとどまっていた(次塁に達するまでにアウトにならなかった)ときには、本項の違反とは関係なくプレイは続けられる。

(12)

8.05 塁に走者がいるときは、次の場合ボークとなる。

(b) 投手板に触れている投手が、一塁に送球するまねだけで、実際に送球しなかった場合。

【注】 投手が投手板に触れているとき、走者のいる二塁と三塁へは、その塁の方向に直接ステップすれば偽投してもよいが、一塁と打者への偽投は許されない。投手が軸足を投手板の後方へはずせば、走者のいるどの塁へもステップしないで偽投してもよいが、打者には許されない。

(13)

(c) 投手板に触れている投手が、塁に送球する前に、足を直接その塁の方向に踏み出さなかった場合。

【原注】 投手板に触れている投手は、塁に送球する前には直接その塁の方向に自由な足を踏み出すことが要求されている。投手が実際に踏み出さず、自由な足の向きを変えたり、ちょっと上であげて回したり、または踏み出す前に身体の向きを変えて送球した場合、ボークである。投手は、塁に送球する前に塁の方向へ直接踏み出さなければならないが、踏み出したからといって送球することを要求されるはない。(一塁については例外)

走者一・三塁のとき、投手が走者を三塁に戻すために三塁へ踏み出したが実際には送球せず(軸足は投手板に触れたまま)、一塁走者が二塁へ向かって走っているのを見て一塁へ振り向きざま踏み出して送球することはさしつかえない。しかし、走者一・三塁のとき、投手板に触れている投手が、三塁に踏み出してすぐ身体を回して一塁に送球することは、一塁走者を騙す意図が明らかであり、また、このような動きでは現実は一塁に送球する前に一塁へ直接踏み出したことにはなっていない。したがって、このような行為は、ボークを宣告されるべきである。

投手が三塁へ踏み出したあと、軸足を投手板から後方へはずせば、一塁へ振り向きざま送球してもボークとはならない。

【注】 投手が三塁へ踏み出して腕を振って送球する動作(偽投)をした勢いで軸足が投手板からはずれた(場所の如何を問わない)場合には、そのまま振り向いて一塁へ送球することは許される。